

「伊豆沼・内沼が東アジア・オーストラリア地域
フライウェイパートナーシップに参加しました」

渡り鳥の主要な渡り経路（フライウェイ）として世界には9つのフライウェイの存在が知られています。東アジア・オーストラリア地域フライウェイは、北はアラスカからロシア東部、シベリアにかけての地域から、日本や朝鮮半島と中国東部を通り、東南アジア、ニューギニア、オーストラリアからニュージーランドへかけての地域で、渡り鳥の保全上特に重要なフライウェイと認識されています。

東アジア・オーストラリア地域フライウェイに含まれる国々や渡り鳥を保全する取組を行っている人々が協力するための枠組が東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップで、渡り鳥の生息状況や保護活動について、情報や技術の交換を行っています。

現在、17カ国から122サイトが参加しています。そのうち日本からの登録は今回、伊豆沼・内沼とともに野付半島・野付湾が参加したことで、32サイトとなりました。日本では、種群ごとに生息している場所や保全活動が異なることが多いため、ガンカモ類、シギ・チドリ類、ツル類の3つの種群ごとに重要生息地ネットワークを作っており、伊豆沼・内沼はガンカモ類ネットワークに含まれます。

宮城県北部にある蕪栗沼、化女沼は、ともにラムサール条約登録湿地であり、すでにパートナーシップに入っています。今回、伊豆沼・内沼をもつ栗原市、登米市の参加を契機に、このラムサールトライアングルの連携を密にし、湿地の保全、研究、環境教育の促進に努めていきたいと考えています。



認定証